

好調の相手に善戦も、 ゴール奪えず崖っ淵

駒澤大学0-0明治大学

勝利できず肩を落とす駒大

(撮影:佐藤 亮)

11月19日 13:50 国立西が丘サッカー場

駒大 (0-0) 明大
(12位) (0-0) (3位)

得点者(アシスト)

なし

KOMAZAWA

GK①大石健太(2)
DF②砂川太志(4)
DF③三宅 徹(4)
DF④林堂 眞(4)
DF⑥濱田 宙(4)
MF⑤山崎紘吉(4)
MF⑦碓井鉄平(2)
MF⑧奥村 情(3)
(84分⑨小牧成互(1))
MF⑩湯澤洋介(3)
FW⑨肝付将臣(4)
(76分⑩小牟田洋佑(1))
FW⑩大園祥太(4)
(68分⑫山本大貴(2))

S U B

GK⑬野村政孝(2)
DF⑭大木 暁(1)
DF⑮川岸裕輔(1)
MF⑯板倉直紀(1)

MANAGER

秋田浩一

MEIJI

GK①高木 駿(4)
DF⑫豊嶋剛平(4)
DF③吉田啓祐(4)
(25分⑪鎌戸修平(4))
DF⑬松岡祐介(3)
DF⑮小川大貴(2)
MF⑧田中翔太(4)
(55分⑩矢田 旭(2))
MF⑤宮坂政樹(4)
MF⑯梅内和磨(2)
(77分⑭矢島倫太郎(1))
MF⑮石原幸治(1)
FW⑨岩淵良太(3)
FW⑪阪野豊史(3)

S U B

GK⑫三浦龍輝(1)
DF②奥田大二郎(4)
MF⑭水野 輝(2)
MF⑥楠木啓介(4)

MANAGER

神川明彦

[シュート]10:8 [GK]15:17 [CK]6:3 [直接FK]18:17
[間接FK]1:6 [主審]佐藤 健 [観衆]約 450人

警告(C)/退場(S)

[駒]肝付将臣(C)
[駒]湯澤洋介(C)
[明]岩淵良太(C)

※データの左側が駒大

応援を背に受け健闘も、 悔やまれる引き分け

4連勝中で3位まで順位を上げ、波に乗っている明大との対戦。豪雨の中だったが、集中応援日だったこともあり、駒大が声援を背にチャンスを幾度となく作った。しかし最後まで得点を奪うことはできず、引き分けた。

激しい雨の中、前半から駒大は素早い攻撃を仕掛ける。「(雨は)ポジティブにとらえていた」(山崎)と話したように、スペースへボールを運んでいく駒大サッカーにとっては、雨は無問題。それに対して、明大はパスサッカーで攻めるが、微妙なボールスピードのずれから、パスミスが目立った。

12分には湯澤、16分には肝付が左サイドを突破し、シュートまで持っていく。左サイドを中心に攻め、攻撃のリズムを作ったが、得点は奪えず前半を終了する。

後半に入り、まず決定機を得たのは明大。ゴール前でパスを受けた阪野が、体を反転、最後はゴールキーパーもかわしてシュートを放ったが、ピッチに足を取られたか、ボールはサイドネットへ。絶体絶命のピンチだったが、運にも助けられた。

その後は勝利への執念を見せる

駒大が攻めたてる。60分にはコーナーキックから、64分にはフリーキックからゴールを目指す、なかなか枠をとらえることが出来ない。

さらに駒大は選手交代から打開を図り、山本、小牟田、小牧を立て続けに投入。3トップへと布陣を変更し、ゴールへと迫る。81分には小牟田が頭でゴールを狙うも、得点ならず。じりじりと時間だけが過ぎていく。

ロスタイムに入ってもセットプレーから混戦、押し込むだけだったが、明大守備陣の必死のクリア。ゴールを決められない。最後まで1点をもぎ取ろうと猛進するが、無情にもタイムアップ。勝利を手にすることはできなかった。

試合後、「よくやっていたと思う」(秋田監督)と話し、内容の良さは伺える。しかし勝ち点3を得ることはできず、単独最下位と、窮地に追い込まれた。奇跡を起こすためには、当然連勝するしかない。残り2節はどちらも残留争いをする相手、激しい戦いになるのは間違いないだろう。その中でどれだけ勝ちへのこだわりを見せることが出来るかが、鍵となる。

ミラクルを起こせるか、まずはホーム駒澤で、勝利を手にする事に徹する。

(森下和貴)